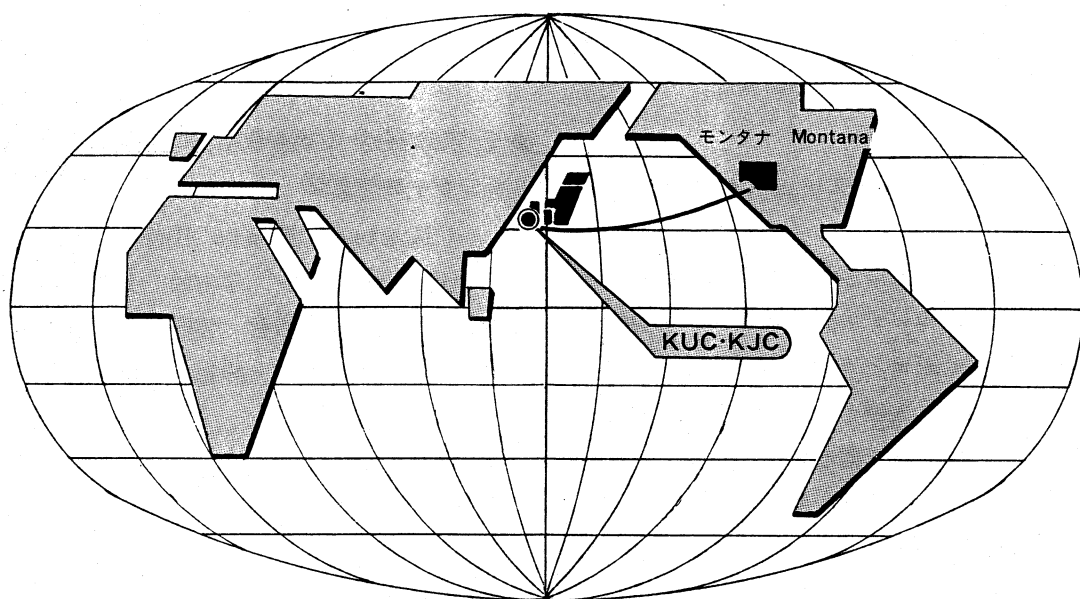


国際交流レター 第2号

海を越えてパートナーシップがひろがる



CONTENTS

MUS研修視察団プロフィール.....	2	MUS研修視察団受入れ等実行委員氏名.....	7
MUS研修視察団スケジュール.....	3	モンタナ州大学システム・デイトン博士.....	8
MUS学生のための特別講義要項.....	4	夫妻ほか来熊	
ホストファミリー引受人紹介.....	6	派遣2学生の帰国報告会を開催.....	9
MUS視察団少林拳見学会.....	7	アメリカ研究報告 林 弘子.....	10
MUS視察団歓迎日本文化祭.....	7	キャロル大学短期研修生報告	
		モンタナにて 緒方 修一.....	12
		青春の一ページ 前田美智恵.....	14

MUS研修視察団23名、6月20日に来学

「国際交流レター」創刊号で一部紹介した、モンタナ大学システム (Montana University System) の研修視察団一行の概略は次のとおり。

モンタナ州立大学	13名	} 計19名
モンタナ大学	5名	
モンタナ鉱工科大学	1名	

うちモンタナ大学の5名は全員が経営学専攻の大学院生である。男女別では、男性14名、女性5名である。

一行を引率するのは、モンタナ州立大学のジェームズ・B・リー教授とロバート・スウィンス教授夫妻および御子息の計4名。

★モンタナ大学システム(MUS)とは?

モンタナ州立の2つのUniversity (モンタナ大学・モンタナ州立大学) と4つのCollege (東モンタナ大学・北モンタナ大学・西モンタナ大学・モンタナ鉱工科大学) の計6大学によって構成されており、それらをまとめあげる組織として高等教育庁長官 (Commissioner of Higher Education) を中心とする理事会 (Board of Regents) がある。5月に来学したアービング・E・デイトン氏は、この高等教育庁長官である。

MUSは、教育・研究・公益事業の三大機能を掲げ、あらゆる手段を用いて質の高い、多様な教育の機会を州民に与えることを目的として組織されている。

また、熊本商科大学・熊本短期大学が1982年7月に姉妹提携したのは、MUS加盟の6大学に加えて、私立のキャロル大学・グレートフォールズ大学・ロッキーマウンテン大学の計9大学である。

★各大学紹介 (研修視察団に参加する3校)

○モンタナ州立大学

(Montana State University)

所在地: ボーズマン 学生数: 10,745名
学部: 人文科学・教育・芸術・農・工 (以上 college) ・経営・看護 (以上 school)

ニックネーム: ボブキャッツ (Bobcats)
敷地: 1,170エーカー (大江キャンパスの52倍)

○モンタナ大学

(University of Montana)

所在地: ミズーラ 学生数: 8,884名
学部: 人文科学 (college) ・企業管理・森林・法・教育・ジャーナリズム・芸術 (以上 school)

ニックネーム: グリズリー (Grizzly)
敷地: 200エーカー (大江キャンパスの9倍)

○モンタナ鉱工科大学

(Montana College of Mineral Science and Technology)

所在地: ビュート 学生数: 1,710名
学部: 鉱物学・工学

MUS研修視察団スケジュール

月 日	朝	昼	夜	宿 泊
6/19(日)			20:50 福岡着	県青年会館
20(月)		挨拶・オリエンテーション	大学主催歓迎会(電々会館)	"
21(火)	県知事・市長表敬訪問	講義 1:00~2:30 パトリック氏		"
22(水)	講義 牛島先生 10:00~12:00	学生(サークル)との交流	学生交歓会(学内)	"
23(木)	RKK見学	熊本日日新聞見学		"
24(金)	講義 落合先生	講義 清野先生		"
25(土)	日本語教育	市内観光		"
26(日)	少林拳見学	歓迎日本文化祭		"
27(月)	日立造船見学(終日)		県主催歓迎会	"
28(火)	企業体験入社			企業
29(水)	"	[本田技研・金剛・肥後銀行 ・熊本相互銀行・ニュース カイホテル・鶴屋・県庁・ RKK]		"
30(木)	"			"
7/ 1(金)	"			"
2(土)	天草観光旅行			国民宿舎松島苑
3(日)	"			"
4(月)	天草立石電機見学	アメリカ独立記念日パーティ		ホームステイ
5(火)	講義 慶田先生	本田技研工場見学		"
6(水)	講義 中野裕先生	スポーツデー	教職員パーティ(学内)	"
7(木)	講義 林弘先生	専売公社見学		"
8(金)	お別れ懇談会			"
9(土)		ホストファミリーとの昼食会	お別れパーティ	ホテル
10(日)	離 熊	広島着 広島市内観光		広 島
11(月)	東洋工業見学	大阪着		大 阪
12(火)	松下電器見学	大阪市内観光		大 阪
13(水)		京都市内観光		京 都
14(木)	自 由	行 動		京 都
15(金)		東京着 東京都内観光		東 京
16(土)	自 由	行 動		東 京
17(日)			19:30 離 日	

MUS学生のための特別講義要項

MUS研修視察団の滞在中、本学では次の7つの特別講義を予定しております。スケジュールは前頁のとおりで、各講義とも質疑応答を含めて2時間程度です。(50音順)

また、日本語教育(担当:赤井恵子講師、明石喜嗣教授、堀治美講師、三石泰子助教授)も計画されております。

〃日本文化、理解への道

本学教授 牛島盛光
(文化人類学)

ここでいう“文化”とは文化人類学の父といわれるエドワード・タイラーの古典的な定義に基づき、一応つぎのような理解をする。

「特定の集団の成員によって、習得され、共有され、伝達される行動様式あるいは生活様式の体系(システム)」。体系というのは、行動あるいは生活そのものではなく、行動を起させる原動力 drives (Ruth Benedict *Pattern of Culture* p. 42) とか行動から抽象された概念を指すのである。

従って日本文化のサンプルのようにいわれる生け花、茶の湯、能、歌舞伎、浮世絵、柔道等々の諸伝統は、この体系から生まれた特殊文化にすぎないのであって、これ等を以て日本文化の“典型”と思込まれることは誤解も甚だしい。むしろ日本人の日常生活や工場における労資間の人間関係のなかから、日本文化の様式(pattern)理解の鍵が発見できるのである。本講義においては、それに至る道(gateway)を私自身の文化人類学的諸体験と理解に基づいて説明しようと思う。

日本国憲法

本学講師 落合俊行
(憲法学)

日本国憲法を機能原理からみた場合、「法の支配」(Rule of Law)が第一の特徴としてあげられる。最高法の観念を中核とするこの法理を制度的に保障するために、81条が規定されている。すなわち、司法審査制である。合衆国憲法の影響を直接に受けたこの制度も、しかし、最高裁による違憲立法審査権行使の日米比較という観点からすると、わが国の場合、法律に対して違憲判断を下したのは30余年の歴史の中でわずか5件に過ぎない。こうした司法消極主義は「憲法の番人」機能を萎縮させる方向に動いている。

半面、理論領域では、われわれは合衆国の憲法上の経験から多くを学んでいる。違憲法律の審査基準としての「二重の基準」(Double Standard)、「事前抑制」、(とりわけ表現の自由の制約原理としての)「明白かつ現在の危険」(Clear and Present Danger)、「より制限的でない他の選択しうる手段」(Less Restrictive Alternative)、などは、その例である。このように、今日、合衆国の憲法問題の状況や合衆国裁判所の判例を分析・研究すること

は、憲法訴訟理論の構築にとって、不可欠な
こととされるに至っている。

戦後の日本政治

本学教授 清野 健
(国際関係論)

戦後の日本の政治は、大別して三つの期間に分けることが出来る。第一期間は、1945年から1960年迄の占領から独立にいたる期間である。又戦後の荒廃からの再生への時期であり、日本最初の社会党を中心にした連合政権が出現し、後に多数党による政治から、曲がりなりにも、二大政党による政治へと推移した期間でもある。第二期間は、1960年から1972年迄の時期であり、経済的発展と政治的安定を得た時期である。換言すれば、経済の高度成長と「寛容と忍耐」を標榜した政治の期間である。第三期間は、1972年から現在にいたるまでである。内外に問題が山積し、そしてそれらに対する効果的な解決策を模索して苦吟している期間である。又保守政権による長期の支配が歪みを露呈し、その結果、めまぐるしい程に政権交替を繰り返してきている。現中曽根政権が如何に問題を処理していくのか、そして世界の一員としての役割をどう果そうとしているのか、凝視すべき時機ではないかと思う。

日本経済論

本学講師 慶田 収
(ミクロ経済論)

現在の日本経済の基本的枠組は、1973年の第1次石油危機への対応に負うところが多い。これを契機にして、日本経済はその様相

を大きく変えてきた。

第1に、経済成長が実質で年率約10%から約5%へ低下し、近年さらに落込んできた。第2に、日本経済は、高度経済成長を支えてきた重化学工業、すなわち、エネルギー多消費型産業構造依存から技術集約的加工産業への脱却に迫られた。第3に、日本経済自身が、サービス化傾向を強め、第3次産業の比重が高まってきている。第4に、対外取引は、高度経済成長期には、国際収支赤字による景気制約要因として認識され、現在は、貿易収支黒字拡大を背景に貿易摩擦問題としてとらえられている。

以上のように、経済成長、経済構造、対外取引に関して、日本経済は変化を遂げつつある。そこで、このような点を中心にして日本経済の考察を進めたい。

日本的経営の功罪

本学助教授 中野 裕 治
(経営学)

- I 序……何故日本的経営か……
- II 日本の経営の特徴
- III 「礼賛論」VS「批判論」
- IV 結……日本的経営の意義……

昭和40年代末頃に登場した「日本的経営」への関心は、不況局面を迎え終身雇用制や年功制など、これまで成長に内部から貢献してきた日本的経営制度・慣行をいかに合理化していくかという点にあった。ところが、今日石油ショック後の極めて厳しい状勢をも克服したという日本経済の事実への海外からの関心に触発されて、国内でも日本的経営の見直し・擁護・礼賛論が登場してきた。かかる知

的環境変化のもとで日本的経営は、改廃すべきものから誇るべきものへと姿態変換をとげつつあるかに思われる。講義では、日本の経営の特徴およびそれをめぐる議論を整理したうえで、日本的経営の国際化という状況を踏まえて、その現代的意義を探索したい。

日本の婦人労働者

本学教授 林 弘子
(労働法・社会保障法)

日本の労働者の38.7パーセントは女性ですというたいがい外国人はビックリする。外国では今日でも、日本の女性といえば、家庭にとどまり、夫と子どもにつくして、晩年は孫の守りをしながら過ごすといった消極的なイメージが強いので、労働者のうち3人に1人以上は女性だと聞くとみんな驚くのである。アグレベン、ハーマンカーン、フォーゲルと日本の労使関係礼賛が続いて、日本の労使関係研究がブームにさえなった。だが、日本の婦人労働者の問題はそのブームの外に置かれていたとあってよい。1980年にコーネル大学からWorking Women in Japanという本を出したら予想外に多くの人を読ん

でくれたのは、日本の働く婦人に関心を持っている人が少なくないためであろう。日本の婦人労働者の現状を紹介したいと思う。

日本人点描

マリスト学園高等学校校長

パトリック・フランシス

この講義では、東洋と西洋における文化的・社会的・言語学的差異についての概略を述べていく。しかもその差異は、人々が潜在的にいだいている誤解へとつながり、時には神秘的なものと思わせるようなものである。

日本人の不可解さは、その大部分が東西相方で培われた神話である。

「我々でさえ、自分自身のことをはっきりとわかってはいない。勉強のために日本にやって来て、最後には我々日本人のことを理解する外人を見て、ほんとうに驚嘆する。」

篠田 正浩

次の諸点について簡単にふれたい。

1. 混乱した国；誰が混乱しているのか。
2. 日本語について
3. 日本人との個人的な交際について
4. グループ対個人

ホストファミリーを引き受けてくださる方は、6月6日現在、次の方々です。ここにご紹介申しあげ、ご協力感謝いたします。(敬称略・50音順)

<教員> 岩野茂道・慶田 収・寫 啓・園田富雄・高瀬泰之・永井 博・中山 襄・野尻秀之・広田 勇

<職員>

小幡安信・永松千足・吉野英行

<学生>

池田好弘・緒方修一・前田美智恵

<学外協力者>

織田智徳・甲斐隆博・長谷川義郎・東一幸・松本新吉

◎視察団歓迎行事の一環として予定されている26日の少林拳見学および歓迎日本文化祭の概要はつぎのとおり。

MUS視察団少林拳見学会

期 日 昭和58年6月26日(日)
午前 9:30~12:00
出場者 全日本少林拳武徳会本部・熊本県支部
場 所 熊本商科大学体育館2F
次 第

- 9:30 開会式
- 9:40 演 武……小国・宇土・熊商大・熊本大等県内各道場を単位とする集団演武競技
- 9:55 乱取り……県内武徳会会員(約120名)による個人競技(準々々決勝まで)
- 10:50 模範演武……本部(福岡)および県内師範による座取り、白刃、瘋魔杖、開山拳、酔拳、中四拳、気高拳、掌拳の披露
- 11:30 乱取り……準々決勝、準決勝、決勝
- 11:50 表彰式
- 12:00 閉会式

MUS視察団歓迎日本文化祭

期 日 昭和58年6月26日(日)
午後1:00~4:30
場 所 熊本県立劇場 地下大会議室
主 催 熊本商大・熊本短大国際交流委員会
出場者 熊本県内各種芸能・芸道団体有志
なお、いずれも入場無料となっております。
特に午後の歓迎日本文化祭では名称に相応しく、県内各界の有志の方がたにより、武道、吟・剣・詩・舞、民謡、踊り、尺八、琴、三味線、太鼓、いけばな、着物の着付と多彩且つ楽しい催しが企画されております。滅多にない機会ですので多数ご参加ください。

MUS研修視察団受け入れ等実行委員会

- 実行委員長 清野 健(国際交流委員会・特別委)
- 事務局 長 中野裕治(国際交流委員会・特別委)
- 実 行 委 員 明石喜嗣(国際交流委員会・特別委)
- 有本 純(国際交流委員会・特別委)
- 慶田 収(経済学部)
- 江島和広(学生課)
- 桃井芳雄(学生課)
- 星子三郎(総務課)
- 坂本淳子(総務課)
- 小沢守利(経理課)
- 田島司郎(国際交流委員長)

MUS視察団歓迎日本文化祭出場者一覧

	会 派 ・ 流 派	氏 名	会 派 ・ 流 派	氏 名
企 画 者	熊本県立劇場事務局次長	渡辺 泰士	いけばな小原流家元	渡辺 翠晃
責 任 者	全日本少林拳武徳会本部総務局長	佐伯 政雄	剣舞・薩摩神刀自然流・誠心館館長	長谷川聖洲齊
	吟道 誠心会会長	中村 誠秀	民謡会長 つわぶき会	佐藤 孝子
	太鼓 若舟会会長	井野 若舟	民謡 橘会会長	大湖 瞳
出場代表者名	尺八 都山流師範	岩本 征山	詩舞 嶺享会師範	米村 嶺泉
	剣道・二天一流 十七代師範	一川 裕治	装道 寺野きもの教室講師	寺野小夜子
	熊商大剣道部監督	神尾 宗敬	津軽三味線 吉光会師範	福居 慶大
	日本習字教育連・熊本県連合会会長	岡村 研城	琴 生田流宮城会師範	辻 久子
	吟道 吟王流宗家	大塚 晃慧	筑前琵琶 日本旭会師範	青山 旭鷹
	民謡 眞田流宗家	眞田 裕士	日 舞 花柳流	花柳 古貞
	民謡 竹峰会会長	福島 竹峰	虚 鐸(尺八) 宗家	西村 虚空
	吟道 秀峰堂師範	三小田井峰	三味線合奏 眞田会	眞田 裕美
	いけばな 文人瓶華宗家師範	後藤 序郊	眞竹峰会	村田 瑞峰
	華道 池坊正教授	吉山 松月	詩舞 雅萌流宗家	大森 雅萌

モンタナ州大学システム デイトン博士夫妻ほか来熊

去る5月7日、T・シュインデン・モンタナ州知事を団長とする友好使節団（州上・下院議員、大学関係者、財界人ら34名）の一員としてアーヴィング・デイトン博士夫妻およびエドワード・ジャスミン夫妻が来熊した。デイトン氏はモンタナ州大学システム（MUS）の統括本部である高等教育庁長官（コミッショナー）であり、昨夏モンタナ州公立6大学を代表して本学との姉妹提携の調印にあたった人物。また、ジャスミン氏はキャロル大学の理事長でノースウエスト銀行の頭取でもある。

国際交流委員会では北古賀学長を交え両氏との間で5月8日午後5時から約1時間にわたり、ホテルキャッスル地下会議室にて今後の交流の進め方をめぐる懇談会を開いた。懇談会では、まず6月19日から来熊予定のMUS研修視察団受け入れ準備の経過報告がなされ、来年は本学からモンタナへ向け約20

名の学生が送られることが確認された。つきに教員の交流・交換に関して若干の意見交換がなされ、互いに専門分野の教員交換も進めるといふこと、その際、モンタナへはなるべく英語で講義可能なひと、逆にモンタナからの教員は英語で講義して構わないといふこと、また、講義と調査研究の組み合わせ又はそのいずれかについては交換教員の希望を尊重し、義務はなるべく軽くするといふこと、たとえば半年間を講義準備期間に充て、残り半年間を講義することも可能といふことが交された。

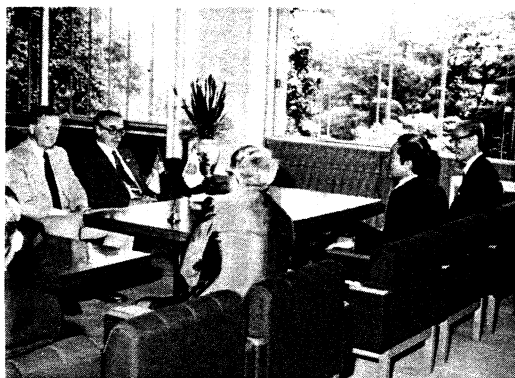
また、経済的問題については、教（職）員の交流・交換に伴う財政的負担をなるべく軽くするような方法を探索しつつ、他方では、県ないし州の協力を得て、国の国際交流基金からの援助をお願いするといふこと、そのためデイトン、ジャスミン両氏は1週間後に日本基金の人と会う予定なので、その件につ



交流をめぐる懇談会（5月8日）



3氏夫妻歓迎パーティ（5月8日）



理事長・学長を表敬訪問（5月9日
左：ジャスミン氏、右：デイトン氏）

いて強く要請するということであった。

引き続き午後6時より同ホテルにて、過日（1月）来熊したキャロル大学ドン・クラーク氏の友人であり、ヘレナ・インディペンデント新聞経営者であるウィリアム・ローズガン夫妻を加えて歓迎レセプションが開かれた。

席上、デイトン氏は歓迎の謝辞を述べたのち「熊本の景色は素晴らしい。今度来る時は、阿蘇だけではなく時間をかけて方々を見て回りたい」と挨拶。ジャスミン氏は、去る2月本学よりキャロル大学へ向け派遣した短期留學生に触れ「2人の留學生については、キレン学長が非常に高く評価しており、私も彼らがモンタナで有意義に過ごせたことを喜んでいる」と述べた。また、本学からは鰐淵理事長が「いまや国際関係は、経済あるいは外交政策では処し得ない時代に入った」として広く文化交流を含む国際交流の重要性を強調すれば、北古賀学長はそれを受けた形で「心と文化の交流をとおして、国境という垣根を取り除くべくモンタナとの相互理解と友情を深めたい」と挨拶した。

翌日、デイトン、ジャスミンの両氏は熊本



来学したジョンツ議員夫妻（5月26日）

大学および熊本女子大と共に本学を訪れ、国交委委員長らの案内でキャンパスを視察。5月10日朝、熊本での日程を終え、東京へ発った。

また、モンタナ州下院議員ジョン・M・ジョンツ夫妻が5月26日に来学し、学長との会談・英語の授業参観・研究棟見学などをした。ジョンツ氏は、モンタナ州の東端にあるシドニー（ヘレナから約800Km東）に住み、議員と大学講師の二役をこなしている。会談では、本学の教養・専門の各カリキュラムに強い関心を持ち、様々な質問が出された。

同日夜は、学長との夕食会をホテルキャッスルで行った。

派遣2学生の 帰国報告会を開催

米国モンタナ州私立キャロル大学で2月中旬から2カ月間、視察研修を行なった緒方修一君と前田美智恵さんの帰国報告会が5月25日午後1時半から435教室で開催され、およそ60名の学生が熱心に聴き入った。二人は素晴らしい体験談をこもごもに披露した。



アメリカ研究報告

教授 林 弘子

ACLSの研究者として8か月のアメリカ滞在から戻ったばかりである。ACLSとは American Council of Learned Societies の頭文字を集めたもので、日本語に訳すとアメリカ学会評議会となろうか。ACLSは1919年に設立された学術機関で45のアメリカの学会が加入している。たとえば、アメリカ国際法学会、アメリカ社会学会、アメリカ経済学会、アメリカ歴史学会等の学会から構成されており、アメリカの研究をしている学者を世界中から毎年招聘して、アメリカの大学で研究させることを目的としている。

ACLSの本部は、近くにサクスマンウィット・テラーなどの高級デパートが林立するニューヨークの三番街にあり、28階にある事務所の窓からはクライスラービルが見える。ACLS本部のアメリカ研究部門部長のドゥナー氏の部屋には世界地図がはってあり、その地図の上にACLSの研究者が出るたびにドゥナー氏が赤い針をさしている。

ACLSの研究者になるには予備研究計画を提出し、それをパスすると今度は本計画を提出して、ドゥナー氏の面接を受けることになる。1977年から1982年に44名の日本

人学者が招かれているが、圧倒的に多いのは東京大学からである。九州では九州大学から3名、北九州、鹿児島から各1名、熊本からは私が初めてということで、熊本にも1本針が立っていた。今年は佐賀からも1名通られたということであった。写真をとろうとすると、熊本の針をさして「これはあなたですね」とドゥナー氏が、笑われた。(次頁写真)

アメリカでの長期研究は今回で3回目になるが、研究テーマはいつも同じである。今回も労災と職業病の研究ということで、コーネル大学の産業労働関係スクールとカルフォルニア大学のロー・スクールで調査・研究に従事した。コーネル大学では、ジョン・F・バートン教授の御指導を受け、カルフォルニア大学ではシュテファン・リーゼンフェルド教授の御指導を受けた。ジョン・F・バートン教授は、ニクソン大統領のときに「州労災補償法に関する全国委員会」の委員長をつとめられた方で、彼の業績を日本で紹介したのは私が最初であった。奇しくも、バートン教授は、私の友人、アリス・H・クック、コーネル産業労働関係スクール名誉教授の御弟子さんであった。

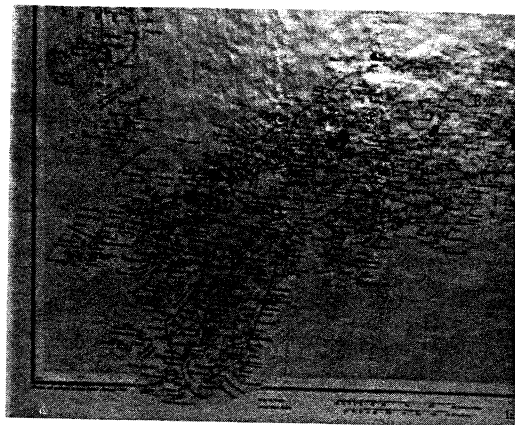
今年、79歳になられるクック教授とは14年来の交流があり、1980年には2人でWork-

ing Women in Japan: Discrimination, Resistance, and Reform と題する本をコーネル大学から出版していたので、コーネル大学についたときは大学出版物を展示したショーウィンドーの1番前に、われわれの本が飾ってあった。中々よく売れたとかで、書評も世界中で20以上出ている。この本のお陰でコーネルでは私の名前も少しは知られていて色んな方にお目にかかることができた。

バートン教授は、まだ40代で上品で指導熱心な方で、よく研究させていただいた。大変オープンな方で、研究に必要なならば学生のレポートまで全部見せて下さった。奥様が料理上手な方で、美しい御宅に招かれて、何度もごちそうになったことも忘れられない。

コーネルでの厳冬を避けて1月から4月までカルフォルニア大学のロースクールで研究した。カルフォルニア大学ではリーゼンフェルド教授の御指導を受けた。教授は既に75歳になられるが、連邦政府の顧問もしておられ、週の半分はワシントン・D. C. で過ごしておられた。リーゼンフェルド教授は、ハワイを初めとしていくつかの州の労災補償法を起草しておられ、労災補償法に関する論文も多数ある。

コーネル大学の厳冬を避けたつもりでカルフォルニア行きだったが、見事に失敗してカルフォルニアは歴史始まって以来の雨続きで、連日の雨には全く閉口した。2月にバートン教授から帰国する前にコーネル大学のロースクールの「比較労働法と社会立法」の授業で日本の労働法について授業をしないかというお手紙を受け取った。快諾の御返事を出した。



4月にコーネル大学に戻る前にパークレーのロースクールの「日本法」の講義によばれて日本の雇用慣行における男女差別について語った。友人の藤倉皓一郎東大教授が客員教授で春の間、日本法について授業しておられたので、ゲストに招かれたのだが、学生3人、弁護士3名と受講者は少なかった。まだ、日本法に対する関心は低いようである。しかし、弁護士の一人、カルフーン氏は日本語はペラペラで日本で弁護士を開業する資格を持っておられた。

4月中旬にコーネル大学に戻った。今年は何年になく暖冬と聞いていたが、戻ったとたん大雪に見まわれたちまち20センチ以上積って、あたり一面銀世界になった。考えてみれば、西から東へと悪い天候ばかり追いかけていたことになる。大雪が一段落した4月21日にロースクールで講義した。学生は約15名(女子学生が2名)、バートン教授とロースクールのコンビット教授が参加された。アメリカ流のケース・スタディということで日本の建設業の下請労働者の労災事故の判決を英訳して私のコメントを加えたものを学生

に配って授業した。学生から質問も沢山出て、中々充実した90分の授業であった。正直いって授業の準備は中々大変で、和英辞典だけではアメリカ人の理解できる英文は書けないという大きな壁に直面した。これは英語で物を書くときのこれからの課題であろう。

講義の翌日、ニューヨークに発った。ニューヨークでは、ニューヨーク大学で教えている友人が歓送パーティを開いてくれた。友人の友人たちが7名集まってくれたが、全員ユダヤ人。ユダヤ人たちのおしゃべりはすさま

しくにぎやかでおまけに徹夜ときているから、一人静かにニューヨークの夜を過ごしたいという私の夢も、4月の雪のようにはかなく消えてしまった。

4月末に帰国したら、コーネル大学産業労働研究スクールの学長レムス氏よりお手紙が来た。奥様と一緒に4月初旬に熊本に來られ、熊本城の桜を楽しまれたということであった。「あなたがおられなくて残念でした」と結びにあった。

Carroll College

短期研修生報告

モンタナの印象

熊本商大商学部4年 緒方修一

私にとって、アメリカは一つの大きな夢だった。大学のE・S・Sクラブで毎日英会話の練習はしていても、せいぜい部員同志でディスカッションを行い、日本人的な英語を使うのが精一杯。「アメリカに行って自分の英語力を試してみたい」。これが大学入学当時の夢で、今、現実になった。

2月15日、この日は、とても長い日であった。日付変更線を越えるため、1日が33時間にもなるのだからだ。ロス空港に着いたとき、期待感は一瞬にして吹き飛び、不安感に変わった。「言葉」と「習慣」の違いがあまりにも大きかったから。

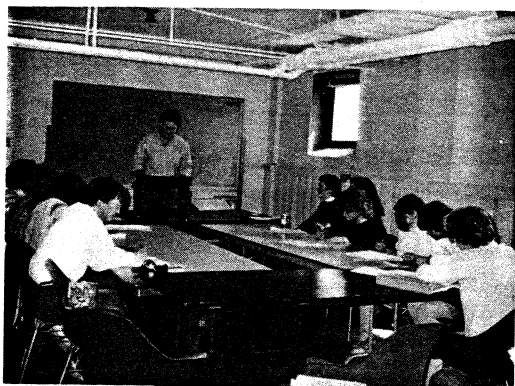
最初に出くわしたのが、チップの問題。ロス空港の中を移動するだけで4ドルもチップに消えてしまった。ウェスタン・エアライ

ンズでチェックインする時にも、説明は英語である。もちろん当り前の事ではあるが、「現実」と「想像」のギャップはあまりにも大きすぎた。モンタナまで行けるだろうか？

その日、ソルトレイクシティに泊ったあと、翌朝、モンタナ州の州都ヘレナへ。ヘレナの空港には、Dr. Swartoutと、キャロル大学に在学している日本人の留学生が迎えに来てくれていた。Dr. Swaroutの英語は実に分かり易い英語で、日本人留学生の「はじめまして」の言葉に、安心感とキャロルカレッジでの生活への期待感が込みあげてきた。

私の生活するドーム(寮)は、セントチャールズという最も大きな建物で、部屋は3階の359号。一人部屋でとてもいい部屋だった。

Dr. Swartouは、私たちの相談役であり、「何か困ったり問題があったらすぐに言って下さい」と、彼は、自分のオフィスと自宅の電話番号を書き留めたメモを渡してくれた。



スピーチの授業（左手前：緒方君、
右端：教授、二人目：前田さん）

彼に最初に頼んだ事は、ルームメイトが欲しいという事だった。友達を作り、英語会話を上達させたかったからである。

その夜、フロアーミーティングがあった。同じ階のメンバー全員が集合し、R・Aという長（チーフ）がミーティングを進め、最後に私の紹介があった。“I'm from Japan. I'll stay here for two months. My hobby is KARATE. If you want to learn KARATE, come to my room please.”というきこちない挨拶は今でも憶えている。

この挨拶のお陰で、後で沢山の友達ができる事になった。まず初めに部屋を訪ねて来たのはマークだった。そして「1、2、3、4、5、6、8、9、10」と日本語で数をかぞえたのだ。「どうして知っているのだ」と聞くと、「空手を習っていた」と言う。「7」は抜けていたが、他はたしかに気合の入ったかぞえ方。「1」と「7」の違いが分からないのは発音の問題のようで、「1」と「7」の違いを教え、今度は空手を手ほどきする事になった。そうこうするうちに、空手の気合

にフロアーの者が8名程集まり、いつの間にか空手教室が始まってしまった。空手のお陰で沢山の友人と遊び相手ができ、淋しさなどは全然感じる暇もなかった。

ドームに入って、まず驚いたのはトイレ。ドアは下の方が4分の1程空いており、鍵もなく、レストランに行った時など、ドア自体がない所もあった。次に、車には車検がなく、壊れかけた車が沢山走っていた。免許は15歳から取得でき、飲酒運転も定員オーバーの取り締りもないといった状態であった。また、電話は10セントで8時間もかけられるなど、「まさに自由の国だ」という印象だった。

アメリカの学生のパーソナリティにはびっくりさせられた。自分をわきまえていて、得手不得手、白・黒がはっきりしており、決して他人の色に染まらず、自己を主張する。ユーモア精神の発達にも目を見張るものがある。そして、他人には干渉しないが、干渉されるのも嫌いときているからやっかいである。

学生の大部分は自活しており、日本の学生と違うのは、大学の中でアルバイトをしているという事。掃除や学食など、学内の至る所で学生が働いていた。

授業の形態ももちろん違う。ジュースやガムは周知の事で、最も人数の多いクラスでも40名程度。先生は、毎時間スピーチを行い、日本の大学に時々見られるような、椅子に坐り本を読み上げる教授は一人も見なかった。学生自身も活発で、いつでも質問をとばし、教授と授業中に議論するのである。

また、大学自体も厳しく、成績が著しく落

ちると退校処分になる。学生の年齢の幅も広く、親子で学んでいる人達も少なくなかった。

スプリング・ブレイクが1週間程あり、その間私はホストファミリーの家に滞在した。彼は元政治家で州の副知事を務めた人物で、お陰で知事や議員の方々など、実に沢山の人物に会うことができて幸いだった。「アメリカにも両親ができた」と言いたいぐらい、感激した経験だった。

「モンタナで得たものは？」と、よく友達に聞かれる。その度に「悪友だよ」と答える。悪友であってこそ、真の親友だと思う。

最後に、アメリカで学んだ事がもう一つある。それは、日本人はもっとバカにならなければいけないという事だ。物事に集中する度合いが大きく、桁違いであり、ユーモアに富み、頭を切りかえるのが実に早く、週末には爆発する——何か自分のやりたい道を見つけたら、それに日本人とは違った形で熱中する“バカ”である。このことは日本人に欠けている一番大きな点であり、大切な事だということを知ってきたつもりである。

青春の1ページ

熊本商大経済学部
4年 前田美智恵

無事にモンタナに着けるだろうか？これが私の最大の心配事でした。福岡空港から韓国経由でロスアンジェルスへ。韓国ではまだ日本語が通じたのですが、ロスからは英語だけになり、少々心細さを感じました。たどたどしい英語ではありましたが、どうやらウェスタン航空に乗り込むことができ、ソルトレークシティ空港に到着しました。ホテルのバスを利用しようと思い、電話をかけたのです

が、ベラベラと英語でまくしたてられて答えることができず、結局、空港の案内係の方に頼んでバスの手配をして頂き、無事ホテルに一泊することができました。

そして次の朝、目的地であるヘレナへ。飛行機の中からヘレナ空港が見えた時は、無事着いたという安心感で胸一杯になりました。

空港には、アドバイザーの先生と日本人留学生が3人、迎えに来て下さいました。キャロル大学には15人の日本人留学生が居て、滞在期間中ずっと親切に手助けをしてくれました。そのことも、今回存分に楽しむことができた理由の一つになっているのかもしれませんが。空港から10分ほどでキャロル大学に着き、早速女子寮に案内され、荷物の整理に追われました。片付けをしていて、ルームメイトが授業から帰って来た時、彼女がいきなり抱きついてきたのには面喰ったと同時に、ここはもう日本ではなく、アメリカなんだということに改めて実感しました。彼女は、身長が同じ位の私に、より以上の親近感をおぼえたのだと後で話してくれました。また、日本人のルームメイトが来るということ私の到着の1日前に聞かされ、かなり不安に思っていたそうです。言葉のハンディはやはりありましたが、身ぶり手ぶりで話しているうちに、私たちはすっかり仲良しになりました。

キャロル大学での最初の1週間は、時差ボケのためか、夜中の2時頃に目が覚め、ルームメイトを起こしてしまい、彼女の生活を随分狂わしていたように思います。それでも、嫌な顔もせず、真夜中に私の話相手をしてくれました。彼女はやさしく、よく気がつく、まじめな学生でした。その点でも私は恵まれ



仲良しになったルームメイトと一緒にの前田さん

ていたと思います。彼女は、夜10時前にはベッドに入り、朝5時前に起きて朝食時間まで勉強することを日課としていました。そして週に2回ほど学校の食堂で働き、夜はベビーシッターのアルバイトの日もあり、毎日何かと忙しそうでした。家からの仕送りは全くなく、アルバイトで稼いだお金が学費となり小遣いとなると言っていました。これは決して彼女の家が貧しいとかの理由ではなく、すでに彼女に自立の精神が備っているためだろうと思います。彼女に、今回の旅行に必要なお金は自分で貯えたのかと聞かれて、うなずけなかった自分が恥ずかしく感じられました。

キャロル大学の学生は彼女に限らず、みんな勤勉家でした。アメリカの大学は入りやすく、出にくいというのは本当のようで、テストの結果が悪くて退学させられる学生もいれば、授業についていけず自分からやめていく学生も少なくないとのこと。結局、最後まで残った学生が本当に優秀な学生であるといえるのかもしれませんが。

私は決して英語が得意な方ではなく、ルームメイトと話す時も常に辞書が必要でした。

しかし、私たちが友だちになるのに一番重要だったのは、言葉でなく、相手に与える印象だったように思われます。私の場合、いつも笑顔でみんなと接したことが沢山の友だちを得た最大の理由になっているようです。

帰国日が近づいた頃、気のゆるみからか、風邪をひいて2、3日寝込んでしまいました。日本人留学生の一人が体温計を貸してくれたので、測ってみると、何と100度以上も。一瞬、あわててしまいましたが、アメリカは華氏だったことを思い出して安心しました。寮の友人が心配して、かわるがわる見舞いに来てくれた時は、風邪の苦しさも忘れて、モンタナに来れたことをうれしく感じました。

ルームメイトと特に親しくなり、キャロル大学の春休みにはアイダホにある彼女の家で10日間程を過ごしました。彼女の家は農家で、広い牧場と沢山の牛馬を飼っていたので、毎日、牛に餌をやったり、馬に乗ったりして、本当に楽しく過ごしました。

最後の夜、キレン学長夫妻の夕食会に招待されました。学長はいろいろとお忙しそうで、結局、学長とゆっくり話ができたのは最初と最後の2回だけだったようです。夕食会が終わって寮に帰ると、今度は寮内でお別れパーティを親しくしていた友だちが開いてくれました。この日は、ルームメイトも遅くまで一緒に付き合ってくれました。

空港で、「あなたの笑顔を覚えておきたいので泣かないでほしい」とルームメイトに言われ、必死で涙を我慢しましたが、飛行機に乗り込む時、彼女も泣きだしてしまい、結局は二人共涙の別れになってしまいました。今思うと、それだけが残念でなりません。

◎国際交流委員会メンバー

商学部長・経済学部長・短大部長・教養部長・教務部長・学生部長・海外事情研究所長
総務課長・(委員長 田島司郎)

◎同委員会特別委員 清野健・明石喜嗣・中野裕治・有本純

◎「国際交流レター」編集委員 中野裕治・有本純・塚本諄・桃井芳雄・坂本淳子

熊本市大江2丁目5番1号

熊本商科大学

熊本短期大学

〒862 TEL.(0963) 64-5161
